

日時 令和8年8月 27 日(木)15:00～16:15

場所 今治市役所 本館2階 庁議室

参加者 小田 雅人 委員、田中 良史 委員、辻 正太 委員、中村 良 委員、原 竜也 委員、
村上 周子 委員、森脇 亮 委員(五十音順)

議事概要

1 会長・副会長の選任について

・「今治市海事都市推進会議規則」に基づき、委員による互選の結果、以下のとおり決定した。

会 長:小田 雅人 委員

副会長:森脇 亮 委員

2 審議事項について

・本会議における審議事項は下記のとおり。

1 コンセプト等を踏まえたMICE施設の規模・機能について

(1)バリスシップ等の大規模な展示会や国際会議、学会が開催可能となる規模・機能

(2)施設の収益性も考慮した市民の日常利用や地域イベントに必要な規模・機能

2 MICE施設に係るその他事項について

概算事業費や施設整備の全体スケジュール等

上記審議事項について、各委員から次のような意見があった。

【委員意見】

○特に重要なのは「今治らしさ」であり、その優先順位や核となる要素を明確にした上で検討を進める必要がある。

「今治らしさ」として重要な視点は、次の5つと考えている。

・今治タオルや瀬戸内海など、今治ならではの要素を活用すること

・世界から人を呼び込むことを前提として、来訪目的や施設の魅力を検討すること

・365 日活用される施設とするため、市民利用も含めた高い稼働性を確保すること

・建築そのものに価値があり、今治の文化や特色が反映された施設とすること

・異文化交流は重要であるが、単なる交流の場ではなく、交流を通じて新たな仕事や雇用、研究活動などの成果やアウトプットにつながる機能を備えること

○新たな施設は、バリスシップの会場としてだけでなく、海事関係者にとって拠点となり、有効に活用できる場所になってほしい。

○市内にある既存施設の今後の役割や、市内の既存施設の動向にも留意しながら検討を進めるべきである。

○本施設は海事産業からの寄附を契機としたものであるが、海事だけでなくタオル産業など今治らしさを前面に打ち出した施設になることが望ましい。

○合同庁舎と役割分担をしながら、災害時に避難者を受け入れる機能や、防災拠点としての検討も必要ではないか。大ホールなどを市民の避難場所として活用できるようにすることも重要である。

○これまでは、本事業に対して慎重な立場であったが、世界から人を呼び込む新たな需要を創出できる施設となるのであれば賛成である。

○MICE 施設に、ネウボラ施設や合同庁舎に含まれる機能を、重複して持たせる必要はない。MICE 施設ならではの機能を明確にし、中途半端な施設とならないようにすべきである。エリア全体の計画や合同庁舎の情報も共有しながら議論を進める必要がある。

○「MICE」という言葉が先行すると、一般市民からは日常的に利用しない施設という印象を持たれかねない。日常的に人が集まり、普段から利用される施設となるよう機能を検討すべきである。フードコートや展示スペースなど、人が自然と集まる機能が重要である。

○子どもたちが集う場であるだけでなく、地域住民と交流できる場としての役割も重要である。将来的な U ターンや地域への愛着形成の観点からも、世代間交流を促進する機能が必要である。

○施設の整備に当たっては収益性の視点も重要である。施設の維持管理には継続的な財政負担が伴うため、収益確保の仕組みを検討する必要がある。